

「小正月行事火祭りについて調べ、体験する」

1. 教材化の目的

全国の各地で、1月14日を中心に小正月行事の火祭り(どんど焼き、とんど焼き、左義長、道祖神祭など地域によって様々な名称が使われている)が行われている。

この小正月行事の意味は、特定非営利法人地域資料デジタル化研究会の全国・世界調査によると、全国で集落を単位として行われ、その地域の持続可能な発展を期するための住民総出の年中行事として行われている。

行事は、その一年間の農業の豊作(漁業なら大漁、商業なら商売繁盛など)、作物の病虫害防除、集落の防災、新婚家庭の子宝祈願、子どもの健全育成、家族の健康を一連の行事を通じて、祈願(予祝)し、その一年を幸せに過ごせるよう、集落の住民の絆を深める機会となっている。

このことは、道徳科目の教育において家庭・地域との強い連携のもとに、郷土愛を育み、さらに児童、生徒自らが地域の行事の中で現代課題を見つけ、自ら考えることを通して郷土の伝統に込められた祈りのすばらしさを知ることができ、郷土に誇りをもつことができる身近な地域教材としての意義を有している。

また、小正月行事に込められた祈りは、(1)豊作、商売繁盛(2)防災、安全安心(3)子宝授与、子孫繁栄、健康維持—という地域集落の持続可能な発展に必要な3つの要素が込められている。

小正月行事では、さらにお小屋(どんど小屋)、やぐらづくりなどのモノ作り、門付けなどの芸能伝承体験などが行われ、行事の体験を通じて、仕事の段取りの重要性などを認識し、社会に入っていくための実践力を身につけることができる。

それと行事を通じて共に明日への夢や希望を、集落の仲間とわかちあい、他人を思いやることのできる豊かな人間性が育てることができる。このことは学習指導要領(平成29年告示)が目指す「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」という目標に沿ったものである。

また、現在文部科学省が新たに進めているESD(持続可能教育)のための地域教材とすることも可能である。

こうした小正月行事の全国47都道府県の市町村ごとの個別の実施状況は、NPO法人地域資料デジタル化研究会が行っている20年近くわたる全国調査によって、その全容が明らかになり、デジタルデータとしてネット上で無償公開されている。このことにより、児童生徒は行事の現場での体験学習とともに、ICT(デジタル情報通信技術)を用いて、全国の中での自分の住む地域の行事の意味づけに関する調べ学習や、幅広い視野からの郷土学習が可能になった。

さらに小正月行事どんど焼きの世界調査報告では、日本の小正月行事や、仮装来訪神行事などの類似行事が、アジアからヨーロッパまでユーラシア大陸各地でほぼ同じ時期に行われていることが明らか

になっている。日本の集落を単位にした身近な民俗文化でありながら、小正月行事などに込められた「明日への希望と生命の再生」の願いは、人類共通のものであることが分かった。小正月行事の地域学習を通じて、国境を超えた世代間や家族間、そして人種・民族間の相互尊重と平和と連帯の国際理解が可能となることは、画期的な教材と言える。

※小正月行事どんと焼き全国世界調査 <https://archive.digi-ken.org/koshogatu.html>

さらに個別の教科では、小正月行事を学習指導要領に示される道德教育の以下の留意点にも適用できるだろう。

「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。」

小正月行事どんと焼き全国世界調査によると、国内の小学校が特別行事として、自ら小正月行事を開催することで、地域の伝統文化を大切に伝え、守っている事例も見られる。地域社会の都市化により伝統文化行事が廃れていく傾向のなかで、注目すべき動きと言える。

2. 指導計画案について

(1) 単元の目標

「小正月行事どんと焼きについて体験し、調べたことを発表しよう」

○体験的な活動や調べ学習を通して小正月行事どんと焼きや関連行事などについて知り、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める気持ちをもつ

○自分たちが体験し、調べたことを、写真やビデオやポスターにまとめて発表することができる

○日本全国や世界各地で、自分たちの集落の人々と同じように、この1年の幸せと平安を祈る火祭りや関連行事が行われていることを知る

○自分たちの地域伝統文化が都道府県や世界の国境の枠を超えて、世界の人々とともに平和と豊穡を求める一つの祈りでつながっていることを理解し、世界の平和と連帯について考える

(2) 単元の指導計画案

	主な学習活動	教師の指導のポイント
調べる・見通す	☆小正月行事・どんと焼きについて知ろう (左義長、どんと焼き、とんど焼き、サイノカミ、道祖神祭など、地域によって様々な名前があるので、地域の名称と他地域の名称との違いを考えることも大切) 具体的な活動 ☆父母、祖父母、近所の年寄りに小正月行事の話を聞く	★父母、祖父母に小正月行事のいわれや、歴史的背景について、インタビュー手法で聞き書きをさせる。 ★小正月行事は、一般的に、集落の中心的な広場(道祖神場など)に御神木建て、お小屋(オカリヤ)、やぐら作りから始まり、子どもたちの門付けの各戸訪問、獅子舞などの芸能、お小屋でのおこもり、祭礼の総仕上げとしての「どんと焼き火祭り」に至る、一連の行事が行われることに留意する ★聞いたことをカードに書かせる。

<p>体験する</p>	<p>☆小正月行事・どんど焼き(など)に参加してみよう。</p> <p>☆地域の小正月行事に参加し、わかったことを記録する。</p> <p>○小屋作りでは作業の内容、材料、道具、必要な技術(なた、鋸、鋏、藁の結束等)などの記録</p> <p>○門付け行事では、唱える祝詞、呪文の内容、各家庭での行動とその意味</p> <p>○どんど焼きでは点火から終わるまでの手順。何か焼いて食べたか。</p> <p>○書き初めは持っていったか。</p> <p>○しめ縄など正月飾りの扱いについて</p> <p>○楽しかったこと、苦しかったこと</p> <p>○活動の内容をカメラやビデオで記録してみる</p>	<p>★全国的に、農村地域あるいは、郊外の住宅街でも、旧集落を単位として、青少年グループ育成事業として「小正月行事」を積極的に実施しているところがあるので、積極的に参加を促す。</p> <p>★小正月行事が廃れてしまった地域でも、正月飾りなどを焼却するために、神社などでどんど焼き等を実施しているので、親子で参加することができる。</p> <p>★地域の行事に参加、体験した内容を、ICT 教育を進めている学校では、写真や動画で記録させることにより、表現におけるデジタル教材とすることもできる。</p>
<p>気づきを深め、再び調べる</p>	<p>☆課題を見つけよう</p> <p>☆NPO法人地域資料デジタル化研究会の小正月行事全国調査表を使って、自分たちの地域の様子と、県内外の行事のようすを比較する。</p> <p>※小正月行事どんど焼き全国調査</p> <p>https://archive.digi-ken.org/koshogatu.html</p> <p>○グループに分かれて、課題を見つける</p> <p>○ここまでの学習や体験的な活動を通してわかったことや、もっと知りたいこと、調べたいことを決める。(もっと知りたいことの例)</p> <p>○どんど焼きの意味</p> <p>○門付けは何をしているのか</p> <p>○なぜ書き初めを燃やすか</p> <p>○繭玉だんごを焼いて食べることの意味</p> <p>○よその地域でも小正月行事をやっているのか</p> <p>○海外でも同じことをやっている国があるのか</p> <p>○小正月行事でとなえる「祈り」は何を求めているのか</p> <p>☆さらに調べ学習を深める</p> <p>○学校図書室や公共図書館に行って調べる</p> <p>○インターネットで調べてみる</p> <p>○見つけた課題をもとに、再び父母や祖父母、地域の大人にインタビューしてみる。</p>	<p>★小正月行事のなかで行われている個別のイベントには、深い意味や祈りがある。そのことに気がつくことによって、地域の先人の暮らしの苦労がわかり、また困難を乗り越えて、現在の地域の繁栄があることが理解できれば、先人、先祖への尊敬の気持ちも生まれ、道徳、社会など教科を超えた総合学習が成立するのではないか。</p> <p>★デジ研の全国・国際調査表を使い、同じ県内、全国、世界でどのように小正月行事または新春を迎える行事が行われているか、比較することにより、自分たちの集落の文化行事が全国、世界で一斉に行われていることの不思議に気づく。</p> <p>★学習指導要領に掲げる「持続可能な社会の創り手」のあり方と小正月行事の祈りとの関連について気づく。</p> <p>★さまざまな情報収集の方法を見つけ、その使いこなしができる。再度のインタビューで最初気がつかなかった点について認識を深めることができる。</p>
<p>発表する</p>	<p>☆調べたことを発表する</p> <p>○グループごとに調べたことと、分かったことをポスターにまとめて表現する</p> <p>○発表会を行う</p> <p>☆ 同級生の発表に質問や意見を述べる</p>	<p>★ 友だちとの話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、新たな疑問を見つけたりすることができる。</p> <p>★表現は文字だけでなく、写真や図解などを入れて、見やすくわかりやすく伝える工夫ができる。</p>
<p>ふりかえる</p>	<p>☆学習活動をふりかえる</p> <p>○小正月行事を体験した活動や、調べ学習を振り返り、感想を書く</p>	<p>★自分たちの郷土や伝統のすばらしさに誇りを感じることができ、次は自分たちが郷土をどうしていったらよいかを考えるきっかけづくりとする。</p>

郷土学習 小正月行事学習カード

年 組 氏名

学習テーマ	自分たちの地域の小正月行事を調べる	
インタビューの内容		インタビューの相手
(1) 地域で小正月行事が行われているか (2) 行われていれば、どんなことをしているか 等		(1) 父、母、祖父母 (2) 区長さん、組長さん (3) その他
インタビューでわかったこと		
地域の小正月行事で体験したこと		
<input type="radio"/> 自分自らが体験したものづくりや芸能 <input type="radio"/> 神社などで行われる行事に参加したこと <input type="radio"/> 他地域での行事を見学したこと など		
参加体験してわかったこと		
課題をみつけて調べる		調べる方法
自分が特に興味を持ったことを中心に課題を見つける		図書館、インターネット、インタビュー 小正月行事全国・世界調査
課題について調べてわかったこと		
感想		